



タートル

次はどこへ行ってみようかなー。  
あっ、きれいな鳥が飛んでいる♪  
どこへいくの？いっしょにあそぼうよ！

セイロンオナガ

うんいいよ。ぼくについてきてよ！

タートル

どこへいくのー？ちょっとまってー！



タートル

どこ行っちゃったんだろう～鳥さん！  
おいてくなんてひどいよ～

コタガマさん



コタガマ

どーしたんだ？道にでもまよったのか？

タートル

えっ！ここはどこ？

コタガマ

ここはスリランカだぞ。

タートル

さっきね、鳥をおいかけていたらね、  
いつのまにかココまで来ちゃったんだ。  
オジサンはなにしてるの？

コタガマ

おじさんは苗(なえ)を育てているとこなんだよ。

タートル

うわー、かわいいなあ。でも、こんなに  
いっぱい苗(なえ)を育ててどうするの？

コタガマ

ほら、あそこに森があるだろう。  
あの森にもどすために、この苗(なえ)を育て  
ているんだ。せっかくだから、あの森を案内して  
あげよう。いっしょにおいで。





タートル

うわー、いろんな木が生えている。  
ジャングルの中みたいだ！

コタガマ

ここはシンハラジャとよばれている森なんだ。  
スリランカにすんでいる生き物のほとんどの  
種類がここにいるんだよ。

タートル

へえー、すごい森なんだね

イタッ！。何かがぼくのに頭とんできた！！  
．．．ねえ、おじさんコレ何？



コタガマ

タートル君、頭に当たるなんて運がいいネエ〜。  
ほら、あの木の上を見てごらん。

タートル

あっ！くるくる回りながら落ちている！

コタガマ

このフタバガキは種にハネをつけて、遠くへ  
飛ばそうとしているんだ。自然の知恵(ちえ)  
って本当にふしぎだね。

タートル

あれっ森がきれちゃった。ここには森がないなあ。



コタガマ

ここも昔は、さっきのような森が広がっていたんだ。  
でも田んぼや茶畑、家を建てるためなどで森はすっか  
り小さくなってしまったんだ。森が小さくなると、  
そこにすんでいる、生き物たちがすみにくくなって  
ドンドン、いなくなってしまうんだよ。

コタガマ

ほら、あそこにきれいな鳥がいるだろう？  
あれはセイロンオナガという鳥なんだ。  
あの鳥もすくなくなってきた生き物のひとつなん  
だよ。

タートル

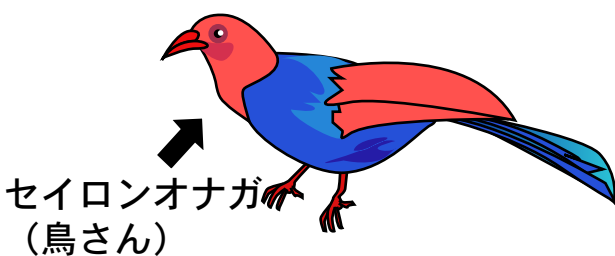
あっ！、さっきの鳥さんだ。おーい！

コタガマ

おやっ？君はあの鳥を知っているのかい？

タートル

うん、さっき友達になったんだ。





コタガマ

シンハラジャには、このような小さな森があちこちにあるんだ。だから私たちは荒地に木を植えて森をつなげようと木を植えているんだよ。そうすれば、また元のように生き物たちが戻ってきて、生き物たちでいっぱいになるんだ。だからタートル君の友達が、もっともっと増えるということになるんだ。

タートル

じゃあこんど、ここへ来ればいっぱい友達ができるんだね。また遊びにくるよ！



○ スリランカ ○

○スリランカはインドの南、インド洋の赤道に程近い熱帯地域にある日本と同じ島国です。島の大きさは北海道を少し小さくしたくらいの広さくらい。スリランカは紅茶の生産が盛んなところでその生産量は世界ではインドに次いで2番目に多い国です。

昔はイギリスの植民地でしたが、1948年に独立しました。スリランカという国名は1972年に決まり、光り輝く島という意味を持っています。青い海に囲まれた本当に光輝く美しい国なのですが1983年ころから国の中で対立するグループができて戦争が起こり、長く悲しい時代が続きました。

2002年の2月に争いを起こしていたグループ同士が、戦争をやめようと仲直りをしました。スリランカはようやく平和に向かって進みはじめたのです。



## ○ シンハラジャ ○

○シンハラジャは正確にいうとシンハラジャ森林保護区の事を指します。1988年に世界自然遺産に指定されました。原始的な熱帯雨林が高さ200～1300メートルの山々に広がっていて、スリランカにすんでいる生き物のほとんどが、ここシンハラジャ森林保護区で見られます。またそのほとんどがここでしか見ることのできない珍しい生き物がすんでいるのです。

## ○ フタバガキ ○

○フタバガキの仲間は南アジアから東南アジアにかけて広い範囲で分布しています。フタバガキ科の種類は世界中で約570種あるといわれています。フタバガキ科の樹木の大部分は、高さが60メートル近い高さには達するなど森の中でも特に大きく成長する木なのです。フタバガキ科の種には大きな特徴があります。種には2～5枚の長い羽根を付けるものが多いです。種は高い枝の先に付いていて、この2枚の翼は、落ちるとクルクルと舞い降りて、回転力で密林の枝をくぐりぬけ、親元からできるだけ遠くの地面にまでたどりつくためにあります。少しでも遠くに種を飛ばして子孫を残そうとする、フタバガキの生き残るための戦術なのです。かつてフタバガキの仲間は東南アジアに広く分布していましたが、木材として外国に輸出するためどんどん人間によって切り倒されてしまいました。そのため今は世界中でフタバガキの森を見る事はほとんどなくなってしまいました。フタバガキの木は「ラワン材」として大半が日本へ送られていたのです。

## ○ セイロンオナガ ○

○セイロンオナガ（スリランカオナガ）はスリランカだけにすむとても珍しい鳥です。主に丘陵地や湿地帯の原生林にすんでいて、コガネムシやカブトムシなどの昆虫やカエル、トカゲなどのハチュウ類を捕まえて食べています。現在スリランカ全域で約2500～10000羽のセイロンオナガが生息していると思われませんが、生息域である原生林の減少で、その数を減らし続けています。



## リコーの活動

スリランカは、北海道をひとまわり小さくしたおおきさです。このなかに100kmを超える海岸線や、木々の生い茂るジャングル、標高1000mを超す山々など、とても変化に富んでいる国です。このために、いろいろな生物が多くすんでいます。アジア地域でくらべると、一定の大きさの中にみられる動物の種類のは、たとえば哺乳類（ほにゅうるい）・両生類（りょうせいるい）・爬虫類（はちゅうるい）では1位、鳥類では2位です。



木材の利用、及びコーヒーや紅茶の畑をつくるため、1880年には国土の面積の約85%をおおっていた森林は1900年には約70%にまで減少し、1960年頃には45%にまで減少しました。現状の森林率は27%程度です。1989年に自然世界遺産として登録された、スリランカの南西に位置するシンハラジャ森林保護区（総面積約112平方キロメートル）の周辺も例外ではなく、森が分断されています。

そこで、リコーがスリランカ野鳥学研究グループに働きかけて、森をつなぐために、天然林の苗木を植林する活動を、1999年から開始しました。シンハラジャ森林保護区では、スリランカ国内で観察することのできる鳥類のうち、約95%の合計147種の鳥類を観測することができます。中でも、ひときわ目を引く「セイロンオナガ」は代表的な鳥ですが、2000年に発行されたアジアレッドデータブックにも記されているように絶滅危惧種です。リコーが支援する、森などつなぐ活動において、拠点となっているのは、シンハラジャ森林保護区の西南にある、オリヤガンケレです。ここでも、以前は「セイロンオナガ」の生息が観測されましたが、現在は見られなくなっています。そこで、オリヤガンケレで、森林復元活動を行い、その効果があったかどうかについて「セイロンオナガ」の生息数を調査して確かめることにしています。



## リコーの活動

セイロンオナガをはじめとする、いろいろな生き物がすみやすい森を復元するために、もともとそこにあった木を植えることにしました。そのために、オリヤガンケレ地域にある、直径10cm以上の木を2291本も調査しました。そして108種類もあることがわかりました。このなかから、最初に植えるのに適している34種類の木を選び、植林することにしました。



プロジェクト開始ご、オリヤガンケレに地域は、かんばつが続いていたために、ずっと選んだ34種類の天然木の「たね」がとれませんでした。2002年になってようやくとれました。今は7家族の人が苗木を育てています。森を復元するためには、地域の人々の「森を守りたい」という強い意志も必要です。そして、なぜ守る必要があるのか、森がなくなってしまうとどういうことになってしまうのか、ということも知っている必要があります。

そこで、それを伝えるために、オリヤガンケレの地域に環境教育センターをつくり、自然観察路（ネイチャートレイル）も作りました。また、木の名前を書いた板を木につけました。ここのセンターには、近くの学校から生徒や先生が1月1度のペースで訪れています。訪問者には、パンフレットを配布したり、自然観察や講義を行って森を守る大切さを伝えています。このプロジェクトはスリランカ政府からも、とても注目されているもので、スリランカ政府の協力ももらっています。

